

第23回 登校拒否・不登校問題 全国のついで

in 大阪 記念講演 (要旨)

いのちと自己肯定感は愛で育つ 高垣忠一郎さん

○ぞうさんと自己肯定感

心ほぐしのために、皆さんで歌を歌いましょう。ぞうさんの歌です。ぞうさんの歌は愛らしい子どもの声でよく歌われていますが、長い鼻をからかわれているんですよ。誰がからかっているのかはわかりませんが、人間の子もだったらそうからかわられたら心が傷つきます。でも、ぞうさんは、かあさんも長いよとさらりと受け止めています。ぞうさんは体も頭もでかいので、食べたり飲んだりするのにいちいちしゃがんでいたら大変です。生きていくために進化の過程で鼻が長くなったのではないのでしょうか。ぞうさんの在り方のなかに、自分は自分でいいんだという自己肯定感があるのだと思います。

○自己肯定感とは人生の浮き輪

自分が自分であって大丈夫であるという自己肯定感とは、人生の浮き輪のようなものです。自己肯定感を喪失しているということは、浮き輪がしぼんでしまっていると表現できます。だから、愛という空気をいっぱい吹き込んであげるので。そうすれば、人はその浮き輪があることで、人生の荒波に負けずに泳いでいけるのではないかと思います。



○自己肯定感とは愛で育つ

自己肯定感とは愛で育ちます。母が20歳のときに私が生まれました。しかし母は結核だったのですぐに離されました。母の代わりに私の面倒をみてくれたのは母方の叔母でした。叔母は私のことをよく叱って可愛がってくれました。安らぎに満ちた記憶が私の自己肯定感の源です。自己肯定感とは、蓄めて評価されるということだけではなく、心と身体のふれあいで育まれるものです。

○自己肯定感の意味

蓄めて自己肯定感を高めましょうとか自己肯定感が高い低いという評価の目でみる学校教育のありかたは、人間ではなく人材を育てる教育になっています。どこが使い物になるのかという評価をされ、小さい頃から値踏みされる環境にさらされています。

2007年、教育基本法が改正されました。まあ一応文言として、教育の目的が人格完成であるところは変わっていませんが、愛国心という言葉が入ってきています。国を誇りに思い、日本国民としての自己肯定感をもてるようにするということですが、結局は、国や企業にとって人材として役に立つという意味での自己肯定感です。

○高速道路で本線に戻る緊張感

今の子どもたちの生活は、高速道路を走るようなものになってしまっています。高速道路での運転は、流れにのって走らないといけません。そのペースで走れる子ならいいですが、ペースはひとりひとり違います。疲れた時には、サービスエリアで水を飲んだりして休憩してから高速道路の本線に戻ります。登校拒否・不登校の子どもがもう一度学校復帰を目指すとき、心のなかにある緊張感とは、高速道路のサービスエリアから本線に出ていくときの緊張感を少し思い出してほしいと思います。



○時間をかけて新しい自分を生み出す

1970年代終わり頃にカウンセリングで出会った高校生は、両親や友達に感謝しながら、自分と向き合う時間を大事にしてきました。また別の彼は、それを続けて5年経ったとき「僕はそろそろカウンセリングを卒業していかんかったらあとがつかえているやろ。だから卒業するわ。5年は長かった。花が綺麗だと感じられるようになった。登校拒否をやって、僕は大きなお土産をもらった。僕は、登校拒否をしてようやく置き去りにしていた心が追いついてきた。」と言いました。

登校拒否・不登校の援助は、元の学校に行けなくなったマイナスをゼロに戻すことではなく、新しい自分を生み出すことを手伝うことです。私たちは、産婆さんみたいな人間にならなあかんよということを申し上げて、私の講演を終わらせていただきます。ありがとうございました。



高垣忠一郎さんの新刊紹介

「自己肯定感を抱きしめて」

—命はかくも愛おしい—

「あなたはこういう物語を生きていますか」という問いを胸に相談者に向き合う。—そんな著者が、身近な出来事の中に見つめてきたイメージという、人間、社会を語った言葉の教養。

いつしか私たちが縛るものさときほぐし。

「自分が自分であって大丈夫」という感覚を
書き立ててくれるフォトエッセイです

オービカラー

書籍は6階606(本部)

にコーナーを設けています

かもかわ出版の協力で、全国連絡会、つどいと関わりが深い方の書籍を多数とりそろえています。いちどお立ち寄り下さい。

はじめのつどいから

歓迎のつどい

全国連絡会世話人代表

高垣忠一郎さん

ようこそお越しくださいました。気象庁もこれは災害だというぐらいの暑さです。最近では台風も近づいていて、無事につどいが開催できるかヒヤヒヤしました。皆さんの中には、初めてこのつどいにお見えになった方はどのぐらいいらっしゃるでしょうか。本当によく来てくださいました。勇気がいったでしょう。でも、帰られる時は、本当に来てよかったと感じて帰っていただけたと思います。

つどいin大阪実行委員長

福田敦志さん

今日お越しいただいた方々は、藁にもすがる思いでお見えになった方もおられるのではないのでしょうか。藁は、なうことで太くしなやかで意外に丈夫な縄になります。藁というものは誰かに与えられるものでもその辺に落ちているものでもなく、皆さんおひとりおひとりではないかと思えます。つどいで皆さんと一緒に縄を編んでいけたらと思えます。楽しくかつ深く語り合ひましょう。

Xメッセージ

全日本教職員組合

宮下直樹さん

全国のつどいin大阪の開催おめでとうございます。昨今の社会風潮のように、生き方を生産性や経済効率でくくる、そんな考え方にとても懸念を抱いています。教育の目的である子どもたちの人格の完成は、国の役に立つということではないと思えます。本当に大事なものは、子どもたちひとりひとりの声を聴いて学校づくりをすることです。つどいは、一人で悩む親だけではなく教職員と語り合う場所でもあると考えます。